

梅毒血清反応検査（RPR）の高値検体希釈倍率の最適化に関する検討

1. 研究の対象

2023 年 6 月から 2026 年 3 月に当院で梅毒血清反応検査（RPR）を検査された方

2. 研究目的・方法

現在、梅毒の検査では「RPR：梅毒抗脂質抗体」という血液検査を行っています。この検査では過剰な抗体が存在すると、検査試薬との適切な反応が阻害され、高いはずの検査結果が偽性に低い結果となることがあり、これを「プロゾーン現象」と呼びます。

そのため、プロゾーン現象が疑われる場合には、血液を段階的に薄めながら検査を行う方法が推奨されています。しかし、この方法は手作業が多く、検査する人員の負担が大きいうえ、結果が出るまでに時間がかかるという問題があります。

そこで今回の検討では、過去にプロゾーン現象の確認のために行った検査結果を振り返って分析し、実際には「何倍まで薄めたときに一番正しい結果が出ていたのか」を調べます。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2027 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる情報の種類

診療に用いた RPR の検査結果、年齢、性別、病歴、投薬歴 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

高知大学医学部附属病院 検査部 技師長 徳弘慎治

088-880-2466 (時間 平日 08：30～17：15)

研究責任者：

高知大学医学部附属病院 検査部 部長 藤本 新平